

「本当の感謝とは何か？」を社員に実体験させてこそ、お客様に心から感謝できる社員が育つのだと気づいた社長は、毎年の入社試験の最後に、学生に次の2つの質問をするようになりました。

「あなたは、お母さんの肩叩きをしたことがありますか？」

この問いに、ほとんどの学生は「はい」と答えるそうです。次の質問に、学生たちは驚きます。

「あなたは、お母さんの足を洗ってあげたことはありますか？」

これには、ほとんどの学生が「いいえ」と答えるそうです。

「では、3日間差し上げますので、その間に、お母さんの足を洗って報告に来てください。それで入社試験は終わりです。」

学生たちは「そんなことで入社できるのなら」と、ほくそ笑みながら会社をあとにします。ところが、家に帰って実際にやろうとすると、母親に言い出すことが、なかなかできないのです。

ある学生は、2日間、母親の後をついてまわり、母親から「お前、おかしくなったのか？」と聞かれました。

「いや、あの～、お母さんの足を洗いたいんだけど・・・」

「なんだい？ 気持悪いねえ」

こうしてその学生は、ようやく母親を縁側に連れて行き、たらいに水をくみ入れました。そして、お母さんの足を洗おうとして、足を持ち上げた瞬間・・・。

母親の足の裏が、あまりにも荒れ放題に荒れて、ひび割れているのを手のひらで感じて、絶句してしまいます。その学生は心の中で「うちはお父さんが早いうちに死んでしまって、お母さんが死に物狂いで働いて、自分と兄貴を養ってくれた。この荒れた足は、自分たちのために働き続けてくれた足だ」と悟り、胸がいっぱいになってしまいました。そして、「お母さん、長生きしてくれよな」と、ひとこと言うのが精一杯だったのです。それまで、息子の「柄にもない親孝行」をひやかしていた母親は「ありがとう」と言ったまま黙り込んでしまいました。

しばらくすると、息子の手に落ちてくるものがありました。

それは、母の涙でした。

学生は、母親の顔を見上げることができなくなって、「お母さん、ありがとう」と言って、自分の部屋に引きこもりました。

そうして翌日、彼は会社へ報告に行きました。

「社長、私はこんなに素晴らしい教育を受けたのは初めてです。ありがとうございました。」

「君は一人で大人になったんじゃない。お父さんやお母さんや、いろいろな人に支えられて大人になったんだ。そして、これからも、自分ひとりの力で一人前になるのではないんだ。私自身も、お客様やスタッフや、いろいろな人たちとの出会いの中で一人前の社会人にならせていただいたんだよ」

私の長男も3月に念願の薬剤師になり、4月1日よりホノミ漢方のメーカーに、バタバタと就職していきました。しばらくは毎日研修だと言っていたので、初めて社会人のイロハに触れている頃だと思います。

くしくも震災の年の社会人スタートとなった長男が、世の中の、日本の為に少なからず貢献できる人間～人生になってくれる事を、親として切に希望する今日この頃です！！

P.S.

東日本大震災からあと少しで2ヶ月たとうとしていますが、毎日のように起こる余震や出口の見えない原発問題で、気が滅入りそうになってしまいますが、私達被災していない西日本が元気に頑張って顔晴らないと、東北の～日本の元気も作れないという気持で過ごしましょう！！

